

研 究 発 表 会 開 催 通 知

(平成元年 7 月 15 日～8 月 31 日)

研 究 会	日 時		会 場	備 考
情 報 シ ス テ ム	7 月 18 日 (火)	13 : 00～16 : 30	日本私学振興財団	前号参照
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	7 月 20 日 (木)	10 : 00～17 : 30	筑 波 大	同 上
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	7 月 20 日 (木) 7 月 21 日 (金)	9 : 00～17 : 00 9 : 00～17 : 00	N T T 沖 縄 会 館	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	7 月 21 日 (金)	9 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	7 月 25 日 (火)	13 : 00～17 : 00	同 上	同 上
情 報 学 基 礎	7 月 27 日 (木)	10 : 00～16 : 40	国立教育会館	同 上
ア ル ゴ リ ズ ム	7 月 27 日 (木)	10 : 30～17 : 00	東 工 大	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	8 月 17 日 (木) 8 月 18 日 (金)	13 : 00～18 : 30 9 : 00～16 : 30	浜 名 荘	下記参照

◆ 第 40 回 グラフィクスと CAD 研究会 (発表件数：14 件)

(主査：川合 慧，幹事：宇野 栄，中嶋正之，守屋慎次)

日 時 平成元年 8 月 17 日 (木) 13 : 00～18 : 30
8 月 18 日 (金) 9 : 00～16 : 30

会 場 浜名湖保養所 浜名荘
〔静岡県浜名郡舞阪町弁天島乙女園 994-1, JR (新幹線)：浜松または豊橋下車，東海道線：弁天島下車。
Tel. 05359 (2) 0668〕

議 題 第 3 回 グラフィクスと CAD 集中研究集会
「自然対象物のモデリングと表現技術」

グラフィクスと CAD 研究会では，研究者・技術者相互間における質の高い集中的な討議と情報交換を目的とする活動として，標記集中研究集会を本年も開催いたします。この集会は，選択されたテーマについて参加者全員が発表と討論を集中的に行い，そのテーマについての結論あるいは見通しを得るために開くものである。また同時に，浜名荘を利用して泊まり込みで同一テーマの研究者が集い，親睦を深めるものである。今回はテーマとして「自然対象物のモデリングと表現技術」を選びました。

8 月 17 日 (木) —13 : 00～18 : 30—

- (1) 開催の挨拶 川合 慧 (東 大)
- 自然物体表現モデル (3 件) 司会：宇野 栄 (日本 IBM)
- (2) ボクセル・チェーンを開いた 3D グラフィクス 石井郁夫，小野尚紀，大和淳二，牧野秀夫 (新潟大)
- 〔概要〕 隣接ボクセル間をチェーン結合した 3D 形状記述法で複数物体の移動・回転・拡大・縮小などの実時間操作を実現。
- (3) 画素シフトに基づく非解析的テクスチャとその自然対象物生成への応用

岡田 稔，横井茂樹，鳥脇純一郎 (名 大)

〔概要〕 解析的テクスチャを変形させることによって，自然対象物のテクスチャを手続き的に生成する手法について述べる。

(4) 自然対象物のモデリングと確率過程

安生健一 (日 立)

〔概要〕 自然対象物をモデル化する上で用いられる確率過程・確率場の果す役割や数学的性質を述べる。

●不定形物体の表現 (3件)

司会: 守屋慎次 (電機大)

(5) コンピュータ・グラフィックスにおける干渉色表示の検討 横井茂樹, 鈴木信雄, 鳥脇純一郎 (名 大)

〔概要〕 光の干渉色表示のアルゴリズムを検討し, シャボン玉の表示を試みた結果を報告する。

(6) 水や煙の流れのシミュレーション 千葉則茂 (岩手大), 村岡一信 (盛岡短大), 中川滋雄 (東北大)

〔概要〕 “流体粒子”や“渦場”の行動モデルによる, 水や煙の流れの表現法を提案する。

(7) 2次元テクスチャによる不定形な自然対象物のデザイン

大島登志一, 板橋秀一 (筑波大)

〔概要〕 2次元テクスチャを加工して動きを持たせることにより炎など不定形な自然対象物のアニメーションをデザインする。

8月18日 (金)

—9:00~11:30—

●その他の自然表現 (3件)

司会: 近藤邦雄 (埼玉大)

(8) 大気散乱を考慮した太陽高度による色彩変化

深澤正大 (東京工芸大)

〔概要〕 空の色は太陽光の光散乱によっている。太陽の高度により通過する大気の厚みが異なる。その時の色彩の変化を計算により求め, 色の再現を試みた。

(9) 異方性反射モデルによる布地の質感表現

鈴木克知, 安田孝美, 横井茂樹, 鳥脇純一郎 (名大), 稲垣勝彦 (名古屋市立女子短大)

〔概要〕 布の微視的な構造から光の反射モデルを考案し, シューディングによる布地の質感表現を検討した。

(10) 石垣パターンの生成技法

宮田一乗 (日本 IBM)

〔概要〕 積石の大きさ等の数個の入力パラメータを用いた, 石垣パターンの生成技法について報告する。

—12:30~16:30—

●研究動向と展望

司会: 出澤正徳 (理 研)

(11) “キーノート” 自然物体の CG による生成技法

中嶋正之 (東工大)

〔概要〕 CG により生成技法が研究されている自然物体を分類し, 各自然物体ごとに主な技法を紹介する。

(12) 山岳・地形の生成に関する研究動向

宮田一乗 (日本 IBM)

〔概要〕 山岳や地形の生成に関する従来の研究について解説し, その動向を紹介する。

(13) 樹木・草木の生成に関する研究動向

千葉則茂 (岩手大)

〔概要〕 樹木, 草, 花等の生成に関する従来の研究について解説し, その動向を紹介する。

(14) 金属・岩石の生成に関する研究動向

横井茂樹 (名 大)

〔概要〕 金属, 岩石等の固形物体の表面模様の生成に関する従来の研究について解説し, その動向を紹介する。

(15) 服地・布の生成に関する研究動向

今岡春樹 (繊維高研)

〔概要〕 服地, 布等の生成に関する研究について解説し, その動向を紹介する。

(16) 総合討論会

自然対象物のモデリングと表現技法の問題点を探り, 今後の展望を討論する。

この集中研究集会への参加ご希望の方は, 下記までお問合せください。(参加人数 25名)

担当委員 中嶋正之 東工大・工・像情報 Tel. 045 (922) 1111 (内 2081)

近藤邦雄 埼玉大・工・情報工学 Tel. 0488 (52) 2111 (内 254)

主 査 川合 慧 東大・教養・情報図形科学 Tel. 03 (467) 1171 (内 444)

◆ データベース・システム研究会 合同研究会
オペレーティング・システム研究会

上記2研究会を合同で下記により開催いたします。

本合同研究会は, 分散処理やオブジェクト指向など多くの面で, 密接な関連をますます強めつつある, DB と OS の両分野の研究発表によって, お互いの促進を図るものです。この趣旨に合った興味深い発表が予定されています。

多数のご参加と, 盛んなディスカッションをお願いいたします。なお, 詳細は次号本欄をご参照ください。

日 時 平成元年 9 月 8 日 (金) 9:40~17:00

(本年 2 月号の会告よりも, 開始時間を 10 分早めましたのでご注意ください)

会 場 機械振興会館 地下 3 階 研修 1 号室

議 題

- (1) MVS/ESA における常駐 DB 機能 武藤善八郎 (日本 IBM)
- (2) データベースの並列処理を支援するオペレーティング・システムの基本機能 新城 靖, 清木 康 (筑波大)
- (3) DB 統合型 OS の構造と性能評価 高崎繁夫, 平林元明 (日 立)
- (4) DREAM システムについて 正田定幸, 川上 英, 吉田 誠, 坂本明史 (沖電気)
- (5) 分散セグメンテーションに基づくデータベースアクセス方式 國枝和雄, 水谷高康, 大久保英嗣, 津田孝夫 (京 大)
- (6) データベースオペレーティングシステム μ OPT-R における演算処理の高速化 水谷高康, 國枝和雄, 大久保英嗣, 津田孝夫 (京 大)
- (7) OS/omicon 上での追記型光ディスクを用いた世代管理ファイルシステムについて 横関 隆, 岡野裕之, 並木美太郎, 高橋延匡 (農工大)
- (8) オブジェクト指向データベース管理システムの物理構造仮想化方式 鶴岡邦敏 (日 電)
- (9) オブジェクト共有型分散オペレーティングシステムの構想 陣崎 明, 樋口昌宏, 玉野 肇, 加藤光幾 (富士通研)

◆ 設計自動化研究会

第 49 回 研究会は, 平成元年 10 月 17 日 (火) に開催予定でしたが, 全国大会と重なるため, 開催日を **10 月 24 日 (火)**, **25 日 (水)** に変更します. 開催場所は予定どおり明治大学です. なお, 「**Design & Test**」特集とし, 電子情報通信学会 (フォールトトレラントシステム研究会) との共催により開催します.

発表をご希望の方は, 研究会発表申込書に発表題目と発表者名, 50 字以内の概要を記入のうえ, 学会事務局研究会担当までお申し込みください.

◆ 人文科学とコンピュータ研究会

第 3 回 人文科学とコンピュータ研究会を下記のように開催いたしますので, 奮ってご参加ください.

発表をご希望の方は, 研究会発表申込書に発表題目と発表者名, 50 字以内の概要を記入のうえ, 学会事務局研究会担当までお申し込みください.

日 時 平成元年 12 月 9 日 (金) 10:00~17:00

会 場 奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財センター

開催内容 研究発表および奈良埋文研情報処理施設見学

発表申込み締切 平成元年 8 月 31 日 (木)

◆ 情報学基礎研究会

第 15 回 研究会の日時を下記のとおり変更いたします.

日 時 平成元年 **10 月 6 日 (金)** 午後 (論文発表), **7 日 (土)** 午前 (論文発表・システム見学)

特 集 マルチメディア・知識情報の意味を見直そう

マルチメディア・知識情報の処理にたずさわるさまざまな立場の人々 (コンピュータを使用せず処理している人, ソフトウェアシステムの研究・開発者, システムの利用者ほか) との意見交換・議論を通じて, マルチメディア・知識情報の持つ意味・構造や表現・生成・伝達・理解の形式について, より一層理解を深めましょう. 奮って発表申込みください. 発表をご希望の方は, **7 月 28 日 (金)** までに, 研究会発表申込書に発表題目と 50 字以内の概要を記入のうえ, 学会事務局研究会担当までお申込みください.

なお, マルチメディアシステムの見学も予定しており, 会場は 9 月号でご案内いたします.

◆ ソフトウェア工学研究会

第 69 回 研究会は「知的ソフトウェア開発」をテーマとし、人工知能学会との共催で下記のとおり計画しています。

ソフトウェア開発にかかわる知的な作業を、計算機に自動的に行わせるための理論、モデル、ツール、方式、経験などの発表申込みを歓迎いたします。発表をご希望の方は、**8 月 31 日（木）**までに研究会発表申込書に発表題目と 50 字以内の概要を記入のうえ、学会事務局研究会担当までお申込みください。

日 時 平成元年 11 月 24 日（金）9：00～17：00

会 場 青山学院大学 総合研究所ビルディング

平成 2 年度研究会等の新設提案について

平成 2 年度に研究会・調査委員会の新設を希望する会員は、**9 月 18 日（月）**までに所定の書式により、研究会（調査委員会）新設提案書を調査研究運営委員長に提出してください。書式その他詳細は学会事務局研究会係までお問合せください。

平成元年度の会費、論文誌・欧文誌購読費の 納入について（お願い）

本年度の会費および購読費未納の方に、6 月中旬に郵便振替用紙によって、再請求のお願いをいたしました。ご承知のとおり、会費と購読費は前納を原則としており、大部分の方はすでに納入済みです。未納の方は早急にご納入くださいますよう、よろしくお願いします。

なお、**7 月末日**までに納入いただけない場合には、9 月から学会誌、購読誌の送付をストップいたしますので、ご留意ください。また、ストップしました学会誌、購読誌は、その後会費、購読費を納入されても配付を受けられないことがありますので、ご承知ください。

〔自動振替納入利用の会員へ〕

去る 5 月 29 日に振替未済の方は**7 月 27 日**に振替えますので、その前に預金残高を確認いただき、振替額不足にならぬようご留意ください。振替金額は 5 月中旬の請求額とおりです。振替えされた場合には預金通帳の摘要欄に「ダイヤモンドファクター」または「コウザフリカエ」と印字されますのでご確認ください。

第 39 回 全国大会（平成元年後期）論文集予約について

標記全国大会は既報のとおり、来る 10 月 16 日(月)～18 日(水)に九州工業大学（北九州市戸畑区仙水町 1-1）で行われます。九州開催ということで盛会が予想されます。

つきましては、論文集が非常に分厚くなりますので、購入方法は従来にまして予約制を徹底いたします。下記要領で早目にお申込みくださいますよう、ご協力をよろしくお願いします。

記

○本号綴込みの「平成元年後期 第 39 回全国大会論文集予約申込書」により、平成元年 9 月 8 日(金)までに、事務局へ直接予約申込みください。

○予約価 5,000 円（定価 6,000 円，送料 950 円）

注）プログラムは 9 月号（Vol. 30 No. 9）に掲載いたしますので、登壇発表者はとくにご注意ください。

第 39 回 全国大会宿泊について

第 39 回全国大会時期は修学旅行、行楽シーズンのため、ホテルが不足するおそれがあります。ご希望の方は早目に下記の業者宛に申込みください（学会事務局では直接取り扱いいたしません）。

(株)日本交通公社 国内・海外団体旅行新宿支店 営業第 3 課 担当：寮・寺田

160 新宿区西新宿 1-18-8（新宿スカイビル 4 F）

Tel. 03 (346) 0161 FAX 03 (346) 0159

(株)日本旅行 新橋支店情報処理学会係 担当：丸谷・大坂・田口

105 港区新橋 2-5-4 第一兼坂ビル

Tel. 03 (503) 2657 (代) FAX 03 (503) 8752

(株)三 慶 旅行事業部 担当：清水・鈴木

170 豊島区東池袋 1-25-17（ウエストビル 2 F）

Tel. 03 (987) 2631 (代) FAX 03 (987) 4659

(株)日本交通公社 北九州支店 営業第 3 グループ 担当：益田・有馬

802 北九州市小倉北区堺町 1-1-1（交通公社小倉ビル）

Tel. 093 (521) 2887 FAX 093 (511) 4190

近畿日本ツーリスト(株) 北九州支店 担当：古曽尾・山口

802 北九州市小倉北区鍛冶町 1-2-16（モノレール小倉駅前）

Tel. 093 (551) 4891 FAX 093 (521) 1774

創立 30 周年記念論文の公募について

情報処理学会では創立 30 周年を記念して、下記により「記念論文」を公募中です。会員の皆さまは奮って応募されますようご案内いたします。

1. 応募資格

情報処理学会の会員（正会員、学生会員、海外会員）であること。共著可。

2. 論文の性格と書き方

ア. 情報処理に関するオリジナルな論文であること。

イ. 論文は邦文または英文とする。

ウ. 邦文論文は「情報処理学会論文誌原稿執筆案内」、英文論文は「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」の書き方にそれぞれよることとするが、制限ページはいずれも刷り上り B 5 判 12 ページとする。したがって英文論文の場合「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」には“刷り上り 1 ページは、通常のテキストでは 1,000 語程度”とあるが、本記念論文の場合は 620 語程度となるので注意のこと。ただし、論文はできるだけ簡潔にまとめることが望ましい。

3. 応募方法

ア. 正論文 1 部およびコピー 5 部を提出すること。

イ. 応募論文の第一ページ標題の左肩に「創立 30 周年記念論文」と明記すること。

ウ. 締切 1989 年 8 月 31 日

エ. 送付先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F

(社)情報処理学会事務局 「創立 30 周年記念論文係」

4. 応募論文の取扱い

ア. 応募論文は記念論文査読委員の査読結果に基づき、拡大論文誌編集委員会で受賞論文の候補を決定する。原則として論文を著者に照会することはしないが、受賞決定後に執筆について助言することがある。

イ. 記念論文選定委員会は 10 編を限度として受賞論文を選定する。受賞論文のうち、特に優秀なもの 3 編以内を入選論文とし、そのほかを佳作論文とする。

ウ. 選定結果は「創立 30 周年記念式典」において公表し、受賞論文の表彰をおこなう。

エ. 受賞論文は「創立 30 周年記念学会誌」に掲載し、また「1990 年後期全国大会」において講演発表する。

オ. 受賞しなかった論文は著者の希望により一般論文扱いとする。

5. 表彰

ア. 受賞論文のすべての著者に対して表彰状および記念品を授与し、受賞論文ごとに賞金を授与する。

イ. 受賞論文 1 編につき論文別刷 100 部を贈呈する。

6. その他

不明の事項については、本学会事務局に問い合わせること。

~~~~~



## 第 11 回 世界コンピュータ会議参加のすすめ

前号でご案内したとおり、標記 IFIP Congress は来月末に、下記によってサンフランシスコで開かれます。

日米間に先端科学技術をめぐり、種々の軌轢が聞かれるときだけに、わが国から一人でも多くの方が参加され、学术交流をととして国際親善につくされることは、まことに意義深いものと存じます。

なお、参加者の便宜のため、登録手続、ホテル予約、視察ツアーなど、JTB が業務代行いたしていますので、ご利用ください。

### 記

○期 日 1989 年 8 月 28 日(月)～9 月 1 日(金)

○会場 Moscone Center, サンフランシスコ

○参加費 \$ 450 (学生 \$ 200), 同伴者 \$ 150

○申込締切 7 月 31 日(月)

#### ・出席旅行

A コース 会議出席短期間 8 月 26 日(土)～9 月 3 日(日) 9 日間: 旅行代金 300,000 円 (会議中サンフランシスコに滞在するコースです。会議だけに出席の方にむいてます。)

B コース 会議出席と自由視察 8 月 26 日(土)～9 月 7 日(木) 13 日間: 旅行代金 310,000 円 (会議中サンフランシスコに滞在后 9 月 2 日～5 日まで自由視察をするコースです。)

C コース 会議出席とアメリカ東部業務視察 9 月 2 日(土)～9 月 10 日(日) 16 日間: 旅行代金 745,000 円 (会議出席後、ミシガン大学、ベル研、カーネギメロン大学、MIT、DEC 等を視察し、東部をまわるコースです。)

・ホテルは、当会議のヘッドクォータホテルの<セントフランシスコホテル>を多数確保しております。詳細な募集要項は、下記までお問い合わせください。

JTB 東京麹町支店 国際会議センター IFIP '89

デスク 102 千代田区麹町 4-3-5 Tel. 03 (239) 9286 担当: 大窪・安武

## 第 22 回 情報科学若手の会シンポジウム開催

- 日 時** 1989 年 8 月 7 日(月)～9 日(水)  
**場 所** 豊橋パークホテル (愛知県豊橋市花田町野黒 79 の 2)  
**定 員** 45 名(先着順, 但し同一の組織から多数申込みの場合調整していただくことがあります.)  
**参加資格** 情報科学及びその関連分野で, 研究・実務に携わっている若手研究者・技術者  
**参 加 費** ¥ 15,000 (食費込み, 遠方からの参加者には交通費一部補助)  
**参加申込** A 4 判の用紙に氏名, 所属, 学年, 連絡先, 電話番号, (JUNET メールアドレス), 発表題目, 発表内容の要旨を記入して送付のこと  
JUNET の E-mail でも受け付けます.  
**申込締切** 1989 年 7 月 24 日  
**申込問合せ先** 440 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘 1-1 豊橋技術科学大学情報工学系 大岩研究室内 若手の会事務局 (幹事代表 塩見彰睦)  
Tel. 0532 (47) 0111 (内 557)  
JUNET: shiomi@tutics.tut.junet  
参加を内諾された先生方 河村知行, 高橋延匡, 竹下 亨, 湯浅太一 (五十音順, 敬称略)  
※JUNET の NEWS にも案内が出ておりますのでご参照ください.

---

## プログラミング・シンポジウムについて

### 第 31 回 プログラミング・シンポジウム開催 (予告)

- 日 時** 1990 年 1 月 9 日(火) 午後 1 時～11 日(木) 正午まで  
**場 所** 箱根ホテル小涌園  
**問合せ先** 情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03 (505) 0505  
**発表申込** 9 月 2 日(土) までに, 氏名, 所属, 連絡先 (E-mail アドレスも), 発表の題と要旨を A 4 判用紙 1～2 枚に書いて事務局宛にお送りください. その採否は 9 月末までにお知らせいたします. 発表原稿の締切は 11 月 16 日(木) です.  
**参加申込** 9 月, 10 月号に参加申込書を, また 11 月号にプログラムを掲載する予定です.  
**注意** (1) 学術論文発表の場というより, 多方面の人々の共通の討論の場であり, 意見の交換の場であると考えています.  
(2) 情報処理の健全な発展のために, 多数の方々が参加され, とくに利用者の立場から活発に発言されることを期待します.  
(3) 未完成であっても将来に影響を与えるような話題を歓迎します.  
(4) ポスタセッションおよびマイコン・ビデオデモなどの場所用意する予定です.

「立体視技術とその最先端応用」講習会開催について

立体視が効果的な応用分野として、遠隔操作のシミュレーション、流体の空間的な流れの表示、3次元形状の設計があり、最近よく立体視が利用されるようになってきました。またハードウェアの発達も目覚ましく、立体視表示可能なディスプレイもいくつか見られるようになってきました。この状況を正確につかみ、今後の発展を考えるために、昨年夏、集中研究集会で立体視に関する研究発表と討論を行いました。

今年度はこの成果を元に、立体視の基礎技術に関する研究者や、実際に立体視技術を利用している企業の技術者の講演をまとめた本講習会を開催することにしました。グラフィクス応用の技術者やCAD技術者の方々に幅広く参加いただき、今後の立体視技術の発達、応用に対して展望を見出したいと思います。奮って参加してください。

日 時 1989年9月29日(金) 9:30~17:00  
会 場 機械振興会館大ホール (地下2階)  
申込締切 1989年9月10日 (月)  
参 加 費 会員 10,000円, 非会員 15,000円, 学生会員 1,500円  
問合せ先 担当委員 近藤 邦雄 埼玉大学工学部情報工学科 Tel. 0488 (52) 2111  
主 査 川合 慧 東京大学教養学部情報・図形科学教室 Tel. 03 (467) 1171 (444)

~~~~~プログラム~~~~~

〔立体視の技術〕

- 1. 開催にあたって (9:30~9:40) 近藤 邦雄 (埼玉大)
- 2. 視覚機能と立体視 (9:40~10:50) 畑田 豊彦 (東京工芸大)
- 3. 立体視技術とその動向 (10:50~12:00) 出澤 正徳 (理化学研究所)

—— 昼 食 (12:00~13:00) ——

〔立体視技術の最先端応用〕

- 4. 立体視技術の工業デザインへの応用 (13:00~14:10) 司会者 内田光太郎 (リコー)
- 5. 立体視技術の医療分野への応用 (14:10~15:20) 梶中 兼司 (シャープ)

—— 休 憩 (15:20~15:35) ——

- 6. 立体視技術のロボット制御への応用 (15:35~16:45) 司会者 守屋 慎次 (東京電機大)

松井 俊浩 (電総研)

~~~~~き り と り 線~~~~~

「立体視技術とその最先端応用」講習会

参 加 申 込 書

平成元年 月 日

申込書 氏名 \_\_\_\_\_ 会員 No. \_\_\_\_\_

連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 \_\_\_\_\_

Tel. \_\_\_\_\_

標記講習会の参加を下記によって申し込みます。

○参 加 費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000円 非会員 15,000円 学生会員 1,500円

○送金方法

\_\_\_\_\_円を \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日送金します (金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)

- a. 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 講習会係)
- b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

|            |                            |           |         |
|------------|----------------------------|-----------|---------|
| 第一勧銀虎ノ門支店  | 1013945                    | 富士銀行虎ノ門支店 | 993632  |
| 三菱銀行虎ノ門公務部 | 0000608                    | 三井銀行本店    | 4298739 |
| 住友銀行東京公務部  | 10899                      | 三和銀行東京公務部 | 21409   |
| 名義人        | 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会 |           |         |

請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通  
請求先 \_\_\_\_\_

注) 申込書は1枚1人としてください(この用紙のコピーで可)

## 「教育におけるコンピュータ利用の新しい方法」 シンポジウム論文募集

近年情報処理技術の普及にともなって、従来遅れていた学校へのコンピュータ普及率が急速に向上しています。同時に教育におけるコンピュータ利用の新しい方法に関する研究も活発化し、新しい試みが随所に見られるようになりました。また来年は本会と IFIP の共催による国際会議 “Advanced Research on Computers in Education” が日本で開催される予定です。

この時期に、この分野にかかわる多くの研究者が一堂に会して、広く研究成果を発表し、経験を交換し、検討を行うことは重要な意味があると考えます。

このような観点から、コンピュータと教育研究会では、標記のシンポジウムを開催することを決定しましたので、下記により論文を募集します。

### 記

**内 容** 教育におけるコンピュータ利用技術に関する新しい理論、方法またはシステムに関する研究。但しコンピュータリテラシは含まない。例えば下のようなトピックスが含まれます。

- (1) 知的 CAI に関する研究  
要素技術、学習者モデル、教授方略、誤り原因同定、インタフェース、評価法など
- (2) コンピュータを使った新しい教育環境に関する研究
- (3) 新しい教育用データベースとその利用
- (4) CMI の新しい方法
- (5) 知的教具 (AI Tools in Education)

**日 時** 平成元年 12 月 14 日 (木)～15 日 (金)

**場 所** 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

**発表申込み** 平成元年 8 月 31 日までに、発表要旨を A 4 判一枚程度にまとめて下記あてにお送りください。

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社)情報処理学会 「教育におけるコンピュータ利用の新しい方法」シンポジウム係

採否については 9 月 22 日 (金)までに通知します。採用決定者の論文提出期限は 11 月 20 日 (月)です。

なお、このシンポジウムに関するお問い合わせは下記にお願いします。

コンピュータと教育研究会

委員長 有山 正孝 電気通信大学電気通信学部計算機科学科 Tel. 0424(83)2161

幹 事 雨宮 幸雄 東京計算サービス(株) Tel. 03(595)3616

〃 大槻 説乎 九州工業大学情報工学部知識情報工学科 Tel. 0948(28)5551(207)

## 「1990 年情報学」シンポジウム論文募集

**目 的** 科学における情報の円滑な流通と高度利用を促進するため、データ・知識に関する基本的問題とその整備・利用に関する討議を行い、研究交流をはかる。本シンポジウムは 1984 年以来毎年開催されている。

**内 容** データ・知識に関する課題を具体化し、その理論化と体系化をめざした下記のような論文を募集する。

1. データ・知識の整備：記述、表現、評価、識別、蓄積など
2. データ・知識の流通：標準化、媒体変換、分類など
3. 基礎理論：アルゴリズム（並列・分散コンピューティング、データ構造、分類、暗号理論）、推論、モデリングなど
4. 応用：情報工学の枠にとらわれない個別的な専門研究、データベース、AI、言語処理、ソフトウェア工学での応用（分散データベース、オブジェクトデータベース、ハイパメディア）、統合システム構築法

**共同主催**（予定）日本学術会議 情報学研究連絡委員会  
学術文献情報研究連絡委員会  
学術データ情報研究連絡委員会  
情報工学研究連絡委員会

情報処理学会、人工知能学会、日本医学会、日本化学会、日本数学会、日本地理学会、日本物理学会、情報知識学会

**後 援**（予定）学術情報センター、計測自動制御学会、国際電信電話、情報科学技術協会、情報通信学会、電子情報通信学会、日本医療情報学会、日本科学技術情報センター、日本機械学会、日本金属学会、日本原子力学会、日本材料科学会、日本材料学会、日本生化学会、日本電信電話、日本動物学会、日本農学会、日本分子生物学会、日本分析化学会、日本薬学会、化学情報協会

**日 時** 1990 年 1 月 17 日（水）～18 日（木） 9：30～17：00

**場 所** 日本学術会議講堂（地下鉄千代田線、乃木坂駅下車）

**参加申込み** 氏名、連絡先、職名、資料必要の有無をはがきに記入し 12 月 20 日までに下記に申込む（当日受付もあるが資料不足の際は事前登録者を優先する）。

**参 加 費**（資料代として）共催学協会員 5,000 円 学生 1,500 円 一般 7,000 円

**講演申込方法** ワープロ使用で A 4 判 4～10 枚の論文と題目、氏名連絡先、職名を記入した別紙を添えて下記宛に申し込む。

**講演申込締切** 1989 年 9 月 16 日（土）必着

**採否通知** プログラム委員会で審査し、採否は 1989 年 10 月 1 日までに通知する。

**最終原稿締切** 1989 年 11 月 30 日（木）必着

**宛 先** 情報処理学会 シンポジウム担当 木村保明

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F Tel. 03 (505) 0505

## 平成元年電気・情報関連学会連合大会の開催案内

標記大会は、昨年と同様にシンポジウム講演、パネル討論を下記により開催致します。多数の会員が参加され、活発な質疑討論の展開により会員各位の得るところの多い大会となるよう期待致します。

会 期：平成元年9月5日（火）～7日（木）

会 場：早稲田大学理工学部（東京都新宿区大久保 3-4-1）

特別講演：6日（水）午後1時30分

21世紀の日本のめざすべきもの

——日本のインフラストラクチャの構築——（仮題）

日本学術会議パネル討論：6日（水）午後3時20分

21世紀の電気エネルギー技術への展望（仮題）

### パネル討論の構成

司 会 平山 博氏（早稲田大学）

新 素 材 高橋 清氏（東京工業大学）

情 報 城水元次郎氏（富士通）

エネルギー 関根 泰次氏（東京大学）

研究・教育 岡 久雄氏（三菱電機）

講演日程：大会日程表をご参照下さい。なお、講演は午前9時、午後は1時30分より開始。

講演論文集：下記をご参照下さい。

大会参加費：会員：1,000 円、学生（大学院修士課程まで）：500 円、会員外 1,700 円

聴講される場合は、必ず参加費を納入され、参加章を付けてご入場願います。参加は当日も受け付けますが、下記論文集と同時にご予約頂きますと大会前に論文集と一緒に送付致します。

懇 親 会：6日（水）午後6時より 会場：ホテルストラーダ新宿（新宿区新宿 7-26-40）

会費：一般 4,000 円、学生 2,000 円

### 論 文 集 予 約 募 集

講演論文集：B5判オフセット印刷、8月中旬出版予定、講演内容は下記をご参照下さい。

予約申込締切：平成元年8月4日（金）厳守（電話予約は不可。又、この期日以後に注文書の到達したものは予約扱いとなりません）。

申 込 先：〒東京都千代田区有楽町 1-12-1 新有楽町ビル 電気学会内

電気・情報関連学会連合大会係 ☎ 03-201-0983 FAX 03-201-1983

申込方法：(1)「予約申込書」をご利用下さい。申込みに際しては、分冊の区別と部数をお忘れなくご記入下さい。

(2)論文集代、大会参加費はやむをえない場合を除き、必ず代金を添えてお申込み下さい。

(3)学校、官庁では指定の見積書・納品書・請求書を必要とする方は申込みと同時に関係書類をお送り下さい。

(4)大会参加者は、全員「参加章」を必要とします。

(5)懇親会参加ご希望の方は、必ず代金を添えてお申込み下さい。

送金方法：(1)現金書留

(2)郵便振替 東京 9-3168 番・加入者名：社団法人電気学会

(3)銀行振込 三和銀行日比谷支店・口座番号 120001, 住友銀行丸の内支店・口座番号 400019, 大和銀行丸の内支店・口座番号 253876, 第一勧業銀行有楽町支店・口座番号 1159649, 富士銀行日比谷支店・口座番号 506232, 三井銀行本店・口座番号 0920859, 三菱銀行本店・口座番号 0010001（各銀行とも普通預金、口座名義は社団法人電気学会）

平成元年電気・情報関連学会連合大会日程

(敬称略)

|   | 9月5日(火) 午前                                                       | 9月5日(火) 午後                                            | 9月6日(水) 午前                                    | 6日午後               | 9月7日(木) 午前                                                 | 9月7日(木) 午後                                             |
|---|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 1 | S. 3 リニアモーターカー実用化の最近の動向<br>座長 西條隆繁 (芝浦工大)                        | S. 2 電動機制御における現代制御理論の適用の現状<br>座長 松瀬貢規 (明治大)           | S. 7 ファジィ情報処理技術の最近の動向<br>座長 向殿政男 (明治大)        | ・ 日本学術会議<br>・ 特別講演 | P. 1 情報通信設備の電保護と電観測 井出口健 (N T T通信網総合研究所)<br>座長 井上敦之 (電力中研) | S. 4 制御システム高信頼化の技術動向<br>座長 関口 隆 (横浜国大)                 |
| 2 | P. 6 電力系統のエキスパートシステム その現状と将来<br>座長 豊田淳一 (東北大)<br>副座長 田中秀雄 (東京電力) | S. 5 超電導と精密計測<br>座長 川村光男 (拓殖大)                        | S. 8 赤外放射の測定と応用<br>座長 宮尾 亘 (東京工科大)            |                    | S. 9 鉄道電気車の軽量化をめざして<br>座長 望月 旭 (鉄道総研)                      | S. 18 最近の大型表示装置とその光源                                   |
| 3 | S. 12 オプトエレクトロニクスと有機材料<br>座長 吉野勝美 (大阪大)                          | S. 11 絶縁材料・技術エキスパートシステムの現状と展望<br>座長 田中紀捷 (電力中研)       | S. 14 混合ガス絶縁の進歩<br>座長 田頭博昭 (北大)               |                    | S. 13 高周波点灯(インバータ)照明システムの動向と課題<br>座長 野口 透 (摂南大)            | S. 17 撮像デバイス技術の展開<br>座長 安藤隆男 (静岡大)                     |
| 4 | S. 15 テレビ電話とその周辺技術<br>座長 安田 浩 (N T T)                            | S. 22 リモートセンシング技術の現状と諸問題<br>座長 古濱洋治 (A T R)           | S. 10 インテリジェントな鉄道システムの構築を目指して<br>座長 曾根 悟 (東大) |                    | S. 20 非可視光センシング素子・材料<br>座長 木内雄二 (拓殖大)                      | S. 19 新しいデバイステクノロジーの計算機アーキテクチャへのインパクト<br>座長 阿江 忠 (広島大) |
| 5 | S. 21 光記録技術<br>座長 今村修武 (東ソー)                                     | S. 26 1990年代のULSIの主役：サブミクロンBICMOS技術<br>座長 榎本忠儀 (日本電気) | S. 16 次世代光スイッチの技術課題を語る<br>座長 西原 浩 (大阪大)       |                    | P. 34 インテリジェントオフィスの諸問題<br>座長 真田英彦 (大阪大)                    | S. 24 ISDNの実際と課題<br>座長 宮原秀夫 (大阪大)                      |
| 6 | S. 25 先端的通信衛星構成技術—マルチビーム通信とオンボード信号処理—<br>座長 山本平一 (N T T)         | S. 27 電子機器用電源の高密度化技術<br>座長 四元勝一 (N T T)               | P. 30 CASEとデータベース<br>座長 片山卓也 (東京工大)           |                    | S. 29 企業内教育訓練におけるコンピュータ利用<br>座長 清水康敏 (東京工大)                | S. 23 マイクロ波高温超伝導の展望<br>座長 小林禎夫 (埼玉大)                   |
| 7 | S. 31 ソフトウェアの信頼性をめぐって<br>座長 菅野文友 (東京理科大)                         | S. 28 最近の医用超音波応用<br>座長 井出正男 (武蔵工大)                    | S. 32 並列・分散処理プログラミングとその意味論<br>座長 稲垣康善 (名大)    |                    | S. 35 分散型多元情報処理技術の動向<br>座長 松下 温 (慶応大)                      | S. 33 認識と理解<br>座長 辻 三郎 (大阪大)                           |

**平成元年電気・情報関連学会  
連合大会論文集**

各分冊 B 5 版オフセット印刷

| 分 冊 | 課題（S：シンポジウム，P：パネル討論）                       | 講 演<br>件 数 | 予 約 価<br>当 日 値       |
|-----|--------------------------------------------|------------|----------------------|
| 1   | P. 1 情報通信設備の雷保護と雷観測                        | 5          | 3,800円<br>(4,400円)   |
|     | S. 2 電動機制御における現代制御理論の適用の現状                 | 7          |                      |
|     | S. 3 リニアモーターカー実用化の最近の動向                    | 6          |                      |
|     | S. 4 制御システム高信頼化の技術動向                       | 6          |                      |
|     | S. 5 超電導と精密計測                              | 6          |                      |
|     | P. 6 電力系統のエキスパートシステム その現状と将来               | 7          |                      |
|     | S. 7 ファジィ情報処理技術の最近の動向                      | 7          |                      |
|     | 計                                          | 44         |                      |
| 2   | S. 8 赤外放射の測定と応用                            | 6          | 3,700円<br>(4,300円)   |
|     | S. 9 鉄道電気の軽量化をめざして                         | 7          |                      |
|     | S.10 インテリジェントな鉄道システムの構築を目指して               | 6          |                      |
|     | S.11 絶縁材料・技術エキスパートシステムの現状と展望               | 5          |                      |
|     | S.12 オプトエレクトロニクスと有機材料                      | 7          |                      |
|     | S.13 高周波点灯（インバータ）照明システムの動向と課題              | 6          |                      |
|     | S.14 混合ガス絶縁の進歩                             | 6          |                      |
|     | 計                                          | 43         |                      |
| 3   | S.15 テレビ電話とその周辺技術                          | 6          | 3,500円<br>(4,100円)   |
|     | S.16 次世代光スイッチの技術課題を探る                      | 6          |                      |
|     | S.17 撮像デバイス技術の展開                           | 6          |                      |
|     | S.18 最近の大型表示装置とその光源                        | 6          |                      |
|     | S.19 新しいデバイステクノロジーの計算機アーキテクチャへのインパクト       | 5          |                      |
|     | S.20 非可視光センシング素子・材料                        | 5          |                      |
|     | S.21 光記録技術                                 | 7          |                      |
|     | 計                                          | 41         |                      |
| 4   | S.22 リモートセンシング技術の現状と諸問題                    | 5          | 3,600円<br>(4,200円)   |
|     | S.23 マイクロ波高温超伝導の展望                         | 6          |                      |
|     | S.24 ISDNの実際と課題                            | 5          |                      |
|     | S.25 先端的通信衛星構成技術<br>——マルチビーム通信とオンボード信号処理—— | 7          |                      |
|     | S.26 1990年代のULSIの主役：サブミクロンBiCMOS技術         | 6          |                      |
|     | S.27 電子機器用電源の高密度化技術                        | 7          |                      |
|     | S.28 最近の医用超音波応用                            | 6          |                      |
|     | 計                                          | 42         |                      |
| 5   | S.29 企業内教育訓練におけるコンピュータ利用                   | 5          | 3,500円<br>(4,100円)   |
|     | P.30 CASEとデータベース                           | 6          |                      |
|     | S.31 ソフトウェアの信頼性をめぐって                       | 5          |                      |
|     | S.32 並列・分散処理プログラミングとその意味論                  | 5          |                      |
|     | S.33 認識と理解                                 | 6          |                      |
|     | P.34 インテリジェントオフィスの諸問題                      | 7          |                      |
|     | S.35 分散型多元情報処理技術の動向                        | 7          |                      |
|     | 計                                          | 41         |                      |
| 合 本 | 上記分冊一揃（カバー付）                               | 211        | 18,100円<br>(21,100円) |

## 平成元年電気・情報関連学会連合大会論文集価格および内容細目

下記分冊一揃（カバー付）予約価 18,100 円（当日価 21,100 円）

▼〔第 1 分冊〕予約価 3,800 円，（当日価 4,400 円）

（敬称略）

## 1. 情報通信設備の雷保護と雷観測

〔座長 井出口 健（NTT 通信網総合研究所）井上敦之（電力中央研究所）〕

通信，情報，低圧機器の雷被害は，高度情報社会において広範囲に重大な影響を与えることから，その対策が極めて重要なものとなってきた。本パネル討論によって，通信設備の雷問題と対策の現状を明らかにするとともに，今後必要な雷観測を探る。

- 1-1 通信設備の雷保護 1-1-1 通信設備の雷問題と対策 佐藤正治 1-1-2 半導体機器応用システムの雷保護 木村 茂 1-1-3 電力通信設備の雷保護 宮崎光夫 1-2 雷観測 1-2-1 雷観測の現状 横山 茂 1-2-2 落雷位置標定システム（LLS） 石井 勝

## 2. 電動機制御における現代制御理論の適用の現状

〔座長 松瀬貢規（明治大学）〕

高精度・高性能運転特性を有する電動機制御システムの実現を目指して，現代制御理論の適用が進められてきた。更に，マイクロプロセッサの処理能力の向上と演算時間の短縮は，プラントの要求を満足する制御を可能としている。そこで，電動機制御における現代制御理論導入の現状を探り，将来を展望する。

- 2-1 総論 多田隈 進 2-2 電動機制御における最適制御理論の適用 大熊 繁 土谷武士 2-3 電動機制御におけるオブザーバの適用 堀 洋一 松瀬貢規 2-4 電動機制御における非干渉制御の適用 内藤治夫 2-5 電動機制御におけるロバスト制御の適用 大西公平 大前 力 2-6 電動機制御における適応制御の適用 杉本英彦 松井信行 2-7 電動機制御におけるスライディングモードの適用 高橋 勲

## 3. リニアモーターカー実用化の最近の動向

〔座長 西條隆繁（芝浦工業大学）〕

高速・快適で静かな新しい軌道輸送機関としてのリニアモーターカーは世界各国で実用化の段階に入りつつある。代表的な三つのシステムと二つの車輪式の鉄道とのハイブリッド方式について，その実用化の現状と応用の将来展望を紹介し，リニアモーターカーの動向とその適用性を探る。

- 3-1 世界における実用化の動向（総論） 正田英介 3-2 超電導磁気浮上鉄道の現状と将来 藤原俊輔 3-3 HSST の現状と将来 大石 明 3-4 トランスピッドの現状と将来 大塚邦夫 3-5 リニア地下鉄の現状と将来 水間 毅 3-6 M-Bahn の現状と将来 梶野昌利

## 4. 制御システム高信頼化の技術動向

〔座長 関口 隆（横浜国大）〕

制御システムが複雑化，大規模化するのに伴い，システムの信頼性に対する要求が厳しくなってきた。ここでは，制御システムを構成するハードウェア，ネットワークおよび制御用ソフトウェアの高信頼化技術についての動向を探るとともに今後の発展のための討論を深める。

- 4-1 総論—実態と展望— 塚本修己 4-2 制御用ソフトウェアの特徴と高信頼化の手法 長瀬 博 4-3 制御用ネットワークの高信頼化技術 井手健一郎 中島千尋 4-4 制御用ネットワークの実例と今後の課題 荻野康一 4-5 高信頼化のためのマンマシンインタフェース 四十万稔 4-6 制御装置の高信頼化技術 三枝宏明

## 5. 超電導と精密計測

〔座長 川村光男（拓殖大学）〕

精密計測における超電導技術は電圧標準，磁気センサ，電磁波検出・ミキサなど高感度，低雑音を必要とするアナログ応用や信号処理，電磁石などとして実用の段階に入りつつある。しかし，その性能を達成するエレクトロニクスや冷却技術など実用上の問題点も多い。そこで，これらの周辺技術を含む最近の技術の動向と諸問題について討論する。

- 5-1 超電導と標準計測 信太克則 5-2 超伝導と生体磁気計測 栗城真也 5-3 超電導と電磁波検出 松井敏明 5-4 超電導と信号処理 吉清治夫 5-5 精密計測用超電導磁石 野口照夫 5-6 超電導精密計測のための冷凍技術 尾形久直

## 6. 電力系統のエキスパートシステム その現状と将来

〔座長 豊田淳一（東北大学）副座長 田中秀雄（東京電力）〕

電力系統を捉える新しい視野として AI が注目されており，この中で最も実現性が高いと云われているエ

キスパートシステムは、各所で開発が進められている。このエキスパートシステムについて国内外の現状、ニーズとの整合、技術の進展による将来像を探り、今後の発展のための討論を深める。

6-1 電力系統のエキスパートシステム ——国内の現状—— 守口正司 電力系統のエキスパートシステム ——国内の現状—— 功刀正彦 電力系統のエキスパートシステム ——海外の現状—— 横山隆一 電力系統のエキスパートシステム ——真鳥岩男 電力系統のエキスパートシステム ——将来の動向・現状業務の立場から—— 皆川 保 電力系統のエキスパートシステム ——将来の動向・システム構築検証の立場から—— 田中裕幸 電力系統のエキスパートシステム ——将来の動向・新しい技法適用の立場から—— 松本啓之亮

## 7. ファジィ情報処理技術の最近の動向 [座長 向殿政男 (明治大学)]

あいまいな情報、特に人間の主観にまつわるようなあいまいさを取り扱うための新しい理論として、ファジィ理論が注目を集めている。本シンポジウムは、最近のファジィ理論の工学、医学、人文社会などへの応用の現状、及びファジィコンピュータの将来の方向を探り、その可能性と問題点とを浮き彫りにする。

7-1 ファジィ理論の応用に関する最近の動向 向殿政男 7-2 計測におけるファジィ情報処理 森田矢次郎  
7-3 医学におけるファジィ情報処理 有田清三郎 7-4 ノンエンジニアリング (人事・管理等の社会一般) におけるファジィ情報処理 三重野博司 7-5 ファジィ制御の最近の動向 広田 薫 7-6 ファジィエキスパートシステムの最近の動向 戸貝方規 7-7 ファジィコンピュータの最近の動向 山川 烈

▼(第2分冊)予約価 3,700 円 (当日価 4,300 円)

## 8. 赤外放射の測定と応用 [座長 宮尾 亘 (東京工科大)]

赤外放射の利用が家電製品にも広く及んできたので、その基本技術となる測定法、光学系、赤外 CCD、赤外カメラの最近の動きおよび問題点を報告し、その応用としてのリモートセンシングの実例と話題性の多い遠赤外線応用の動きと問題点について報告し、討議を行いたい。

8-1 総論 宮尾 亘 8-2 赤外光学系の特性 増谷光正 8-3 InSb CCD の特性 白水俊次 8-4 赤外カメラとその問題点 木股雅章 8-5 赤外放射を用いたリモートセンシング 板倉安正 8-6 遠赤外線の応用動向 松井松長

## 9. 鉄道電気車の軽量化をめざして [座長 望月 旭 (鉄道総研)]

最近の時間価値の増大、高度なサービスの社会的要請は、鉄道電気車両にも強いインパクトを与えており、その効果的な手段としての軽量化技術の進展には、めざましいものがある。ここでは最近の電気車の軽量化の動向、および将来について展望する。

9-1 電気車の動力システムの軽量化 石川 栄 9-2 主電動機の軽量化 阿部政俊 9-3 主回路用半導体装置の軽量化 坪井 孝 木下繁則 9-4 主変圧器の軽量化 遠藤道忠 9-5 保安情報機器の軽量化 西村致知

## 10. インテリジェントな鉄道システムの構築を目指して [座長 曾根 悟 (東大)]

多くのサブシステムからなる大きなシステムで、技術的にも広い領域にわたっている電気鉄道において、気の効いたサービスを低コストで実現するために、独立性の強かったサブシステムを結合するなど、新しい動きがある。これまでの進展と今後の展望を中心に議論を進める。

10-1 鉄道インテリジェント化の全体スコープ 豊田栄次 10-2 車両とその周辺のインテリジェント化技術 長谷川博一 10-3 トータルシステム化——サブシステムの結合—— 渡辺淳一 10-4 踏切のインテリジェント化 福森孝司 10-5 新たな展開を目指して(1) 水間 毅 10-6 新たな展開を目指して(2) 西條隆繁

## 11. 絶縁材料・技術エキスパートシステムの現状と展望 [座長 田中紀捷 (電中研)]

現在、急速に発展しつつある絶縁診断 (高圧回転機、油入変圧器)、絶縁計測・試験、絶縁設計 (ガス絶縁開閉装置) などの分野におけるエキスパートシステム、及び絶縁材料データベースに関する最新の開発状況と今後の展望や課題について、従事されている専門家の講演をお願いする。

11-1 絶縁材料エキスパートシステム調査専門委員会の活動 小崎正光 11-2 絶縁診断エキスパートシステム 11-2-1 高圧回転機 伊藤欣二郎 11-2-2 油入変圧器 阿部景一 梅村時博 三輪直弘 11-2-3 電力ケーブル 大橋義雄 11-3 絶縁計測・試験エキスパートシステム 深川裕正 11-4 絶縁設計エキス

- パートシステムガス絶縁開閉装置 仲西幸一郎 高塚桂三 安田 勝 11-5 絶縁材料データベース 11-5  
-1 耐放射線性絶縁材料データベース 角田恒己 11-5-2 絶縁材料データベースの現状と将来 堤 泰行

## 12. オプトエレクトロニクスと有機材料 [座長 吉野勝美 (大阪大)]

最近の有機材料の進歩はめざましく、特に光学応用への期待は大きい。本シンポジウムでは、有機材料のオプトエレクトロニクス関連に焦点をあて、材料、分子配向膜、液晶、非線形光学材料、EL 素子さらには光コンピューティングなどの話題を集め、その問題点、将来性等を探る。

- 12-1 有機非線形光学材料の作製 中西八郎 松田宏雄 岡田修司 12-2 光情報処理と有機材料 佐々木昭夫  
12-3 光集積回路技術と有機非線形光学材料 佐々木敬介 12-4 液晶デバイスの光コンピューティングへの応用 黒川隆志  
12-5 分子配向膜と液晶素子 前田博己 小林駿介 12-6 有機色素薄膜の光電効果 工藤一浩 田中匡昭  
12-7 有機薄膜 EL 素子 布村恵史 高野繁正 谷 千束

## 13. 高周波点灯 (インバータ) 照明システムの動向と課題 [座長 野口 透 (摂南大学)]

近年、放電ランプの安定器として高周波インバータによる電子点灯回路を用いたものが多く利用されるようになった。そこで、放電ランプと電子点灯回路との関係を再検討することが望まれる。ここでは、放電ランプと電子点灯回路の協調や問題点などの現状を明らかにし、望ましい姿について発表・討論する。

- 13-1 総論 中西宣一郎 13-2 放電ランプの特性と動向 電子雅俊 奥野郁弘 13-3 電子点灯回路の特性と動向 水野銆章 乾 健一  
13-4 光源から点灯回路への要望事項 平尾洋佐 伊藤一也 13-5 点灯回路から光源への要望事項 釘持芳生 山崎広義  
13-6 電子点灯回路に適したランプの開発 渡辺良男 前田孝義

## 14. 混合ガス絶縁の進歩 [座長 田頭博昭 (北大)]

SF<sub>6</sub>の絶縁特性における欠点を改善する目的で、混合ガスの使用が考えられているが、本報告は、電気学会技術報告 (II 部) 第 248 号以降の混合ガス絶縁に関する研究を中心に取りまとめたものである。絶縁特性の大幅な改善が期待されるペーパーミスト誘導体の絶縁特性、絶縁耐力向上の要因についても述べる。

- 14-1 総説 諸隈之彦 14-2 基礎過程とシナジズム 生田信皓 14-3 急峻波不平等電界中の絶縁破壊現象 松本 聡  
14-4 ペーパーミスト誘導体絶縁 宅間 董 14-5 低温高密度ガスの破壊 原 雅則 14-6 混合ガスの評価と応用 谷垣修造

▼ (第 3 分冊) 予約価 3,500 円 (当日価 4,100 円)

## 15. テレビ電話とその周辺技術 [座長 安田 浩 (NTT)]

テレビ電話は新しい画像通信メディアとして、技術の進展が目ざましい分野です。また標準化も国内／外で積極的に行われています。さらにこれら技術は通信という領域のみならず、CD、DAT などパッケージメディアへ応用すべく研究がなされています。これら新しいメディアを支える技術の最新動向です。

- 15-1 テレビ電話技術とその周辺技術 島村和典 安田 浩 15-2 静止画テレビ電話の標準化 山下 孚  
15-3 静止画テレビ電話技術 上野 裕 15-4 p×64 kbps テレビ電話の標準化 大久保栄 15-5 p×64 kbps テレビ電話技術 羽鳥好律  
15-6 符号化技術のパッケージメディアへの応用 橋本 慶隆

## 16. 次世代光スイッチの技術課題を探る [座長 西原 浩 (大阪大学)]

次世代の光通信や光コンピュータには、より高速な光変調やより高度な光交換技術が要求される。光スイッチはそのキーデバイスであり、多入力化、高速化、高集積化、高信頼化に向けて研究開発が進められている。本シンポジウムでは、その技術課題、現状、将来展望について議論したい。

- 16-1 高速 LiNbO<sub>3</sub> 光変調器／スイッチ 井筒雅之 16-2 LiNbO<sub>3</sub> マトリックス光スイッチ 近藤充和、西本 裕  
16-3 LD 光スイッチとそのマトリックス化 池田正宏 16-4 量子井戸半導体導波路スイッチ 浅田雅洋  
16-5 過飽和吸収を用いた半導体光スイッチ 山腰茂伸 若尾清秀 延原裕幸 小田川哲史 16-6 2 次元光スイッチ 久間和生

## 17. 撮像デバイス技術の展開 [座長 安藤隆男 (静岡大)]

近年、画像情報はテレビジョンのみならず、通信・コンピュータの領域まで深く浸透している。今後の画像時代に増々重要度が高まってくる撮影デバイスの最新技術に焦点をあて紹介する。同時に撮影デバイスを支えるプロセス技術の現状や、将来の撮影デバイスの展開方向についても言及する。

- 17-1 アバランシェ増幅型撮像管 倉重光宏 17-2 増幅型固体撮像デバイス 今井正晴 17-3 高解像度

CCD 撮像素子 浜崎正治 17-4 電子スチルカメラ用撮像デバイスの現状と課題 木下貴雄 17-5 固体撮像デバイスのプロセス技術 広島義光 17-6 三次元回路素子とイメージセンサ 鬼追一雅

# 18. 最近の大型表示装置とその光源 〔座長 伊吹順章（摂南大）〕

映像情報時代の進展に伴い、一度に多くの人々に文字・映像情報を提供できる大型表示装置への関心が高まっている。本シンポジウムでは、CRT、放電管等を発光素子とする方式、光ファイバー方式、液晶プロジェクトを中心に、大型表示装置とその光源について最近の技術動向と今後の展望を考える。

18-1 総論 伊吹順章 18-2 LED による大型表示装置 柏原鳳一郎 18-3 カラー液晶ビデオプロジェクト 金谷経一 18-4 光ファイバー使用大型表示装置 前田 徹 18-5 CRT 方式大型表示装置 岩田修司 18-6 蛍光放電管式大型表示装置 井手勝幸

# 19. 新しいデバイステクノロジーの計算機アーキテクチャへのインパクト 〔座長 阿江 忠（広島大学）〕

将来の計算機として、超高速かつ知的演算機能を取りあげ、それらの実現を支える最先端の基本技術を討論する。具体的には、デバイスとして GaAs、三次元および光 LSI 技術、また、システムとしてファジィ理論やニューロコンピューティングを取りあげ、将来の計算機に及ぼす影響を探る。

19-1 総論 阿江 忠 19-2 GaAs 技術 赤坂洋一 19-3 三次元 LSI 技術 小柳光正 19-4 光 LSI 技術 武田光夫 19-5 ファジィ理論 山川 烈 19-6 ニューロコンピューティング 平井有三

# 20. 非可視光センシング素子・材料 〔座長 木内雄二（拓殖大学）〕

最近、非可視光は医用や工業用としてその展開が計られており、特に非可視光画像化技術、赤外撮像素子、X 線センサ、微弱光撮像技術について論じる。

20-1 非可視情報の画像化技術 木内雄二 20-2 最近の赤外撮像デバイスの研究動向 山香英三 20-3 ショットキバリア型赤外線イメージセンサ 寺西信一 20-4 X 線センサ 成瀬雄二郎 20-5 微弱光撮像技術 竹山周良 土屋 裕

# 21. 光記録技術 〔座長 今村修武（東ソー）〕

光記録技術の中で特に書換え可能光ディスクの最近の進歩にスポットをあてる。実用化が始まった光磁気ディスクの現状と将来性は、またオーバーライトに特長をもつ相変化型の課題は何か、さらに実用化に不可欠な規格化の話題などを中心に先端技術の動向と将来を展望する。

21-1 光ディスクの現状と将来技術 野村龍男 21-2 光磁気オーバーライト技術（磁界変調） 尾島正啓 21-3 光強度変調オーバーライト技術 金子正彦 21-4 光磁気ディスクにおける高速転送 稲田博司 窪田恵一 岡田満哉 関口 通 21-5 相変化ディスク技術 船越宣博 21-6 相変化記録媒体 赤平信夫 21-7 書換形光ディスク標準化の現状 森 昌文

▼〔第 4 分冊〕予約価 3,600 円（当日価 4,200 円）

# 22. リモートセンシング技術の現状と諸問題 〔座長 古濱洋治（ATR）〕

社会の発展に伴い、人類の活動が地球環境に与えるインパクトを無視し得なくなっている。本シンポジウムにおいては、地球環境をモニタする上で最適と考えられるリモートセンシングについて、その意義や課題、最近の技術動向やシステムの開発状況およびデータ処理技術について概観する。

22-1 地球環境のリモートセンシングの意義と課題 豊田弘道 22-2 衛星リモートセンシングの現状と将来 田中 佐 22-3 リモートセンシング画像のデータ処理 坂田俊文 22-4 光学リモートセンシングの現状と将来 興石 肇 22-5 電波リモートセンシングの現状と将来 岡本謙一

# 23. マイクロ波高温超伝導の展望 〔座長 小林禱夫（埼玉大）〕

マイクロ波帯において、酸化物高温超伝導体の表面抵抗が、従来の金属のそれよりも下がるかどうかは、エレクトロニクス応用へのキーポイントとして考えられており、現在世界中でその材料評価に関する研究が行われている。ここでは、これらの最近の動向を探り、将来を展望する。

23-1 高温超伝導体のエレクトロニクス応用 岡部洋一 23-2 表面インピーダンスの測定技術 小林禱夫 23-3 高温超伝導体のマイクロ波特性 小林禱夫 23-4 同軸管、導波管および空洞共振器 峰原英介 23-5 酸化物超伝導材料の高周波特性 小中庸夫 23-6 Nb/高温超伝導体点接触ジョセフソン接合 今井捷三

# 24. ISDN の実際と課題 〔座長 宮原秀夫（大阪大）〕

ISDN サービス開始後約1年余を経過し、ユーザおよびキャリアの利用・運用実績が蓄積されつつある。また今年からは新しいISDN サービスも予定されるため、本シンポジウムではユーザ、サプライヤ等多角的観点からISDNの現状とその反省及び今後の展開について討論する。

- 24-1 ISDNの導入と運用 24-2 ISDNのネットワーク技術の動向 江川哲明 24-3 企業網とISDN 湊 大作 24-4 ISDN 端末とインタフェース 宇佐見尚 24-5 動画像とISDN 村上仁己

25. 先端的通信衛星構成技術—マルチビーム通信とオンボード信号処理—〔座長 山本平一 (NTT)〕

我が国の最先端通信衛星技術を宇宙実証すべく実験衛星「ETS-VI」が、1992年に打ち上げられる予定である。本シンポジウムでは世界的にも注目されている本衛星のミッションとそれを支える衛星技術及び今後の技術動向を議論する。

- 25-1 マルチビーム衛星通信システム 鮫島秀一 川合 誠 25-2 移動体衛星通信システム 三島 発 萩原英二 25-3 大型搭載アンテナ技術 大友 功 門脇 隆 堤 勇二 25-4 搭載SSPA/TWTA技術 田中将義 山口 進 今谷敏夫 25-5 衛星間通信システム 鈴木良昭 塩見 正 田中正人 田中良二 小西登音夫 25-6 光宇宙通信 有賀 規 鹿谷元一 鈴木良昭 小松晃一 白王公一 25-7 大型衛星バス構成技術 中丸邦男 片木嗣彦 北原弘志 赤枝忠義 伊藤浩武 末永雅士

26. 1990年代のULSIの主役：サブミクロンBiCMOS技術 〔座長 榎本忠儀 (日本電気)〕

高密度化と高速化に優れたBiCMOS技術がサブミクロンの時代に突入した。昨年サブミクロン技術がはじめてSRAMに適用された。今年はASICやプロセッサにも使われた。90年代は本技術が主役となろう。

この時期に、本技術に対する課題と期待を討論し、将来を展望することは極めて有意義である。

- 26-1 1990年代のULSIの主役：サブミクロンBiCMOS技術、その課題、期待、将来展望 久保証治 26-2 サブミクロンBiCOMS, プロセス, その現状と将来展望 赤坂洋一 26-3 サブミクロンBiCOMS ASIC, その現状と将来展望 福田秀樹 堀口勝治 26-4 サブミクロンBiCOMS ゲートアレイとアナログLSI, その現状と将来展望 前島英雄 26-5 サブミクロンBiCOMS プロセッサ, その現状と将来展望 山田八郎 榎本忠儀 26-6 サブミクロンBiCOMS メモリ, その現状と将来展望 落井清文

27. 電子機器用電源の高密度化技術 〔座長 四元勝一 (NTT)〕

VLSI技術をベースにした電子機器の急激な小形化の進展に伴い、電源に対する小形化・薄形化の要求が熾烈となっている。本シンポジウムでは、この要求を達成するためのキーテクノロジーである高密度化技術に焦点をあて、最新の電源用高性能部品技術並びに実装技術に関する発表・討論を行う。

- 27-1 パワーデバイスの薄膜化への展望 白江公輔 27-2 トランスの薄形・低背文化 村上直樹 27-3 アルミ電解コンデンサの薄形化 安藤 進 27-4 電池の小形・薄形化 加納誠三 27-5 最近のHIC電源技術 田淵勝美 27-6 パワーICの技術動向 松崎 均 27-7 高密度実装電源の熱設計 津国敏明

28. 最近の医用超音波応用 〔座長 井出正男 (武蔵工大)〕

医用超音波応用は近年急速に発展しており、医療の各分野で広く利用されている。特に超音波診断装置は最新の電子技術を取り入れその性能は世界のトップレベルにある。本シンポジウムでは、最近の現況を探り将来を展望する。

- 28-1 超音波医学の展望 和賀井敏夫 28-2 超音波断層像診断装置 飯沼一浩 28-3 超音波ドブラ診断装置 河西千広 28-4 超音波治療装置 鈴木直樹 28-5 医用超音波装置の標準化 井出正男 28-6 超音波の生体作用 前田一雄

▼〔第5分冊〕予約価 3,500円 (当日価 4,100円)

29. 企業内教育訓練におけるコンピュータ利用 〔座長 清水康敬 (東京工大)〕

CAIをはじめ、シミュレータ、EWS、エキスパートシステムなど、コンピュータを利用した最新の教育ツールが開発され、企業内教育に活用されている。ここでは、企業におけるこれらのツール活用教育の新しい流れを紹介するとともに、これからの企業内教育のあり方について討論し、将来を展望する。

- 29-1 NTTにおけるCAI利用の現状 瀬谷正二 29-2 CAI/教育シミュレータによるシステムエンジニア教育 宮岸一孝 29-3 EWSを用いたソフトウェアエンジニア教育 田村武志 29-4 ネットワーク型CAIによる遠隔教育の実例 澤田嘉信 29-5 知的蒸留塔運転訓練用CAIシステム 富田昭司

### 30. CASEとデータベース

〔座長 片山卓也（東京工業大学）〕

ソフトウェア開発の計算機支援 CASE が注目を集めているが、データベースはその中心的構成要素であり、仕様書やプログラム、テストデータ、メモなど多様なデータの格納や動的変化に対する無矛盾性の保持など高度な機能が要求される。ここでは、CASE データベースの諸側面について議論をする。

30-1 CASE におけるデータベースの機能と役割 落水浩一郎 30-2 CASE データベースの構成技術 岸知二 30-3 CASE データベースの実際 上原憲二 30-4 CASE データベースのデータモデル 有沢博 30-5 ソフトウェアプロセスとデータベース 松本弘吉 30-6 ソフトウェアデータベースの技術動向 篠田陽一

### 31. ソフトウェアの信頼性をめぐって

〔座長 菅野文友（東京理科大学）〕

工業製品としてのソフトウェア、即ちドキュメント及びプログラムの生産に際し、信頼性向上は焦眉の急である。また、国際化の進展による文明の共有は、民族文化を基盤とする分業化を促進している。上記の観点から、現状と今後の動向を、ソフトウェア製品としてのライフサイクル全般に立って展望したい。

31-1 ライフサイクルと生産技術 石井康雄  
31-2 ソフトウェアの品質保証 中島稜威雄 31-3 計画と管理 花田収悦 31-4 製品の信頼性 藤野喜一  
31-5 システムの信頼性 古谷勝美

### 32. 並列・分散処理プログラムとその意味論

〔座長 稲垣康善（名大）〕

並列・分散プログラムの分析や検証は逐次型プログラムと比較して極めて困難である。そのため、そのようなプログラムを記述する言語の役割りが重要視され、様々な言語が提案されている。ここではそれらの言語の現状を探りまたその将来を展望する。

32-1 CCS の意味論とその拡張 結縁祥治 坂部慎樹 稲垣康善 32-2 プロセス間通信に基づく並列処理言語とその表示の意味論 那須 隆 大山口通夫 32-3 GHC の意味論とプログラム変換 上田和紀 村上昌己 32-4 並列オブジェクト指向プログラムとその意味論 柴山悦哉 32-5 様相論理と並列プログラム 米崎直樹

### 33. 認識と理解

〔座長 長尾 真（京大）〕

認識と理解という人間の知的活動について理解を深めることは、これからの情報処理を考えるうえで重要なことである。この問題に対する異なる立場からの知見を一堂に集め、実際の観点から、今までの研究成果と今後の課題について整理する機会を提供する。

33-1 認識と理解の諸側面 長尾 真 33-2 認識と理解の哲学 吉田謙二 33-3 認識と理解の心理 波多野 33-4 認識と理解の生理 久保田競 33-5 認識と理解の考え方 小川英光 33-6 認識と理解の実現 谷内田正彦

### 34. インテリジェントオフィスの諸問題

〔座長 真田英彦（阪大）〕

オフィスワークを単純作業から解放し、知的生産性を高めるための支援環境を提供することは、今後の大きな課題である。

ここでは、現在進められている種々の側面から、現状の問題点を明らかにし、それに対する新しいアプローチを紹介するとともに、将来を展望する。

34-1 文書処理の側面から 河田 勉 34-2 ヒューマンインターフェースの側面から 大岩 元 34-3 セキュリティの側面から 八星禮剛 34-4 情報処理の側面から 篠原 健 34-5 マルチメディア処理の側面から 阪田史郎 34-6 オフィス環境・形態の側面から 鈴木義尚 34-7 通信処理の側面から 木下研作

### 35. 分散型多元情報処理技術の動向

〔座長 松下 温（慶応大）〕

情報処理と通信の境界が不鮮明になり、ますます一体化して扱わなくてはならなくなってきた。音声とデータという性質の異なる情報を統合化するための技術をネットワーク、端末、データベースの三つの角度から展望し、その課題をさぐる。

35-1 分散処理技術の動向 松下 温 35-2 分散データベース 増永良文 35-3 マルチメディアデータベース技術 上林弥彦 35-4 統合型広帯域通信網 大西廣一 35-5 統合型 LAN 清水 洋 35-6 ISDN 用統合端末 星 徹 35-7 マルチメディア通信サービス 浦野義頼

平成元年電気・情報関連学会連合大会  
参加・講演論文集・懇親会予約申込書

申込締切日 8月4日（金）

| 分 冊                     | 予 約 価 (円)     | 部 数 | 金 額 (円) |
|-------------------------|---------------|-----|---------|
| 第 1 分 冊                 | 3,800         |     |         |
| 第 2 分 冊                 | 3,700         |     |         |
| 第 3 分 冊                 | 3,500         |     |         |
| 第 4 分 冊                 | 3,600         |     |         |
| 第 5 分 冊                 | 3,500         |     |         |
| 合 本                     | 18,100        |     |         |
| 大会参加費<br>(プログラム<br>参加章) | 会 員 1,000     |     |         |
|                         | 学 生(大学院含) 500 |     |         |
|                         | 会員外 1,700     |     |         |
| 懇 親 会                   | 一 般 4,000     |     |         |
|                         | 学 生 2,000     |     |         |
| 合 計                     |               |     |         |

(送料は大会委員会で負担します)

平成元年 月 日

上記の通り予約いたします。

1. 代金は ☐前払（現金・振替・銀行） ☐後払（該当にレ印および○印）
1. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通, が必要です。
3. ☐所定の書類が必要なので添付する。☐所定書類はない。（該当にレ印）

〔送本先〕

住 所 ㊦

氏名  
(担当者名も記入)

TEL ( )

## 支部だより

### 北海道支部

#### 支部大会講演募集

——平成元年度電気関係学会北海道支部連合大会——

- 期 日 平成元年 9 月 30 日 (土), 10 月 1 日 (日)
- 会 場 室蘭工業大学 (室蘭市水元町 27-1)
- 特別講演 ドイツ語圏の俳句 坂西 八郎 (室蘭工大)
- 講演申込締切 8 月 4 日 (金) 午後 5 時必着 (講演申込書, 原稿, 講演参加費) 詳細は前号本欄参照
- 講演参加費 1 件につき, 発表形式 (A) は 2,500 円, (B) は 4,000 円  
講演者には大会の次第書, 講演論文集, 論文別刷 30 部を進呈する。有料別刷は取扱わない。
- 懇 親 会 9 月 30 日 (土) 18:00~ 室蘭工業大学 学生会館 会費 3,500 円 (学生 2,000 円), 当日受付。
- 申 込 先 060 札幌市北区北 13 条西 8 丁目 北海道大学工学部電気工学科事務室内  
電気関係学会北海道支部連合大会実行委員会事務局 Tel. 011 (716) 2111 (内 6514)

### 東北支部

#### 支部大会講演募集

——平成元年度電気関係学会東北支部連合大会——

- 期 日 平成元年 8 月 24 日 (木), 25 日 (金)
- 会 場 日本大学工学部 (福島県郡山市田村町徳定字中河原 1 番地, JR 郡山駅より, 福島交通バス日大または徳定行き日大下車)
- 講演申込締切 7 月 7 日 (金) 必着厳守 (申込書と原稿を同時締切とする) 5 月号本欄参照
- 論 文 集 発表者には, 大会当日受付にて配布する。購入希望者は, 所要部数を早めに申込むこと (1 部 2,500 円, 郵送希望の場合は, 郵送料 1 部 510 円)
- 申 込 先 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学工学部電気情報系内 電気関係学会東北支部連合事務局  
Tel. 022 (222) 1800 (内 4312) 庄司
- 懇 親 会 8 月 24 日 (木) 18:00~ 場所 郡山市内 会費 3,000 円 申込は当日大会会場で受け付けます。

### 中部支部

#### 支部大会講演募集

——平成元年度電気関係学会東海支部連合大会——

- 期 日 平成元年 10 月 2 日 (月), 3 日 (火)
- 会 場 静岡大学工学部 (浜松市城北 3-5-1)
- 特別講演 (予定) 光と共に 35 年 (2 日 午後) 晝間 輝夫 (浜松ホトニクス)
- シンポジウム (依頼) 画像処理デバイスの現状と展望 座長 萩野 實 (静 大)

リニアモータエキスポレス

最近のセンサ技術

種々のプログラミングパラダイムの比較と効果

音声・画像の帯域圧縮

最近の半導体デバイス

座長 鬼頭 幸生 (名 大)

座長 内川 嘉樹 (名 大)

座長 落水浩一郎 (静 大)

座長 板倉 文忠 (名 大)

座長 梅野 正義 (名工大)

**講演申込締切** 8月8日(火) 午後5時必着 前号本欄参照

**講演参加費** 1件につき2,000円, 講演者には事前にプログラム・参加章および論文集引換券を送付し, 論文集は当日渡す。ただし, 別刷の申込みには応じない。

**一般参加費** 講演者以外は, 参加費(正会員500円, 会員外800円, 学生無料)を当日受付で支払い, 参加章を受取ること。ただし, 論文集購入者は参加費不要。

**論文集予約** 代金2,000円(当日価格2,200円)を添えて8月31日(木)までに下記の実行委員会へ申込むこと。事前に引換券を送付し, 論文集は当日渡す。郵送希望者は, 1冊につき送料510円を加えて送金のこと, 発送は大会終了後。

**懇親会** 2日(月)夕刻 静岡大学工学部会館 会費3,500円(学生2,000円)

参加希望者は当日大会受付で会費を添え申込むこと。

**申込先** 464-01 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部電気系教室内

電気関係学会東海支部連合大会実行委員会 Tel. 052 (781) 2222

## 中国支部

### 支部大会講演募集

——平成元年度電気関係学会中国支部連合大会——

**期 日** 平成元年10月29日(日)

**会 場** 広島大学(東広島市西条町大字下見)

**講演申込締切** 8月31日(木)「講演申込書」「原稿用紙」「講演申込費(郵便振替)」必着のこと。前号欄本参照

**講演申込費** 講演1件につき2,300円(論文集1部, 別刷30部の代金を含む), なお, 別刷は大会当日会場で渡す。

**論文集予約** 代金1部2,000円(含送料)を添えて8月31日(木)までに申込むこと。大会当日の販売部数には限りがあるので, 必要な方は予約をお勧めする。

**懇親会** 10月29日(日)特別講演終了後 会費3,000円

なお, 参加希望者ははがきで10月19日(木)までに申込み, 会費は当日受付で支払うこと。

**申込先** 730 広島市中区小町4-33 中国電力(株)営業部内

照明学会中国支部(山沢) Tel. 082 (241) 0211 (内 3353)

## 九州支部

### 支部大会講演募集

——電気関係学会九州支部 第42回 連合大会——

**期 日** 平成元年10月13日(金), 14日(土)

**会 場** 佐賀大学理工学部(佐賀市本庄町1)

- 特別講演** 13日(金) 15:30~17:00 教養部大講義室  
魏志倭人伝と吉野ヶ里遺跡 高島 忠平(佐賀県教育委員会)
- 講演申込締切** 8月28日(月) 午後5時「原稿」「講演申込書」「講演申込費」必着のこと。前号本欄参照
- 講演申込費** 講演1件につき3,000円(講演者には論文集を1部大会当日受付にて贈呈する。別刷の申込には応じない)
- 論文集** 予約を原則としますので8月28日までに必ず代金を添え申込むこと(1部3,000円, 送料360円)。発送は大会終了後
- 懇親会** 10月13日(金) 18:00~20:00 佐賀大学学生会館大食堂  
会費4,000円(同伴家族・学生2,000円)。参加希望者は9月30日(土)までに代金を添え申込むこと。
- 申込先** 812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学工学部電気工学教室内 電気関係学会九州支部連合会  
Tel. 092 (641) 1101 (内 5300) (振替口座番号 福岡 8-33001)
- 見学会** 10月12日(木) 13:00~16:00  
場所 吉野ヶ里遺跡(佐賀県神埼町・三田川町: 佐賀大から貸切りバス 30分)  
参加費 無料, 定員 90名(申込先着順)  
申込方法 はがきまたは封書にて, 氏名, 勤務先, 住所, 電話番号を記入のうえ, 下記あて申込むこと。  
申込先 840 佐賀市本庄町 1 佐賀大学理工学部電子工学科内  
電気関係学会九州支部連合大会実行委員会  
Tel. 0952 (24) 5191 (内 2658, 2660, 2654)
- ~~~~~

## 本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内\*

- 第39回 産業用ロボット利用技術講習会  
平成元年7月19日(水)~20日(木) 大阪府社会福祉会館
- SICE 講演会「フィールドバスー今後のフィールド信号伝送」  
平成元年9月20日(水) 東京・家の光会館
- 国際シンポジウム「コンピュータワールド'89」  
平成元年9月27日(水)~29日(金) 大阪国際交流センター
- 日本建築学会1989年度大会「建築 CAD・CG 展」  
平成元年10月8日(日)~9日(月) 熊本県立劇場
- 講習会「ディジタルシステム耐ノイズ設計」  
平成元年10月12日(木)~13日(金) 東京・家の光会館
- 情報理論とその応用学会 第12回シンポジウム  
平成元年12月6日(水)~9日(土) 愛知県・名鉄犬山ホテル

\* 詳細は本号会議案内欄参照

## 「情報処理ハンドブック」の頒布について

このたび、面目を一新した新版の「情報処理ハンドブック（B5判，1,600ページ）」を発行いたしました。情報処理・情報工学および情報科学の全分野をカバーした我が国で最も権威のあるハンドブックで、関連技術者・研究者・教育者・学生の好伴侶となり、また専門外の読者でも容易に概念がつかめ、更に深く進むための手引きとなります。早速に購読されることをお勧めします。

会員には特別価格でお頒けいたしますので、希望者は下記により所定の申込書（コピーにて可）にてお申込みください。なお、目次は次のとおりです。

計算の理論，システム解析の基礎，数値解析，ハードウェア，計算機アーキテクチャ，オペレーティングシステム，データ工学，コンピュータネットワーク，プログラミングの基礎，プログラミング言語の記述と処理系，ソフトウェア工学，人工知能，高水準インタフェース技術，システム論，応用システム，教育，規格と資料。

### 記

定 価 33,990 円（本体 33,000 円） 送料 900 円  
 会員特価 28,840 円（本体 28,000 円） 送料 900 円  
 申 込 先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル  
 情報処理学会「情報処理ハンドブック」係 Tel. 03 (505) 0505

平成 年 月 日

## 「情報処理ハンドブック」購入申込書

下記により購入を申込みます。（該当欄を○で囲む）

1. 氏 名 \_\_\_\_\_

連絡先 (〒 \_\_\_\_\_) \_\_\_\_\_

Tel. \_\_\_\_\_

送本先 (〒 \_\_\_\_\_) \_\_\_\_\_

2. 情報処理ハンドブック（28,840 円，送料 900 円） \_\_\_\_\_ 冊

3. 送金の方法

¥ \_\_\_\_\_ を次の方法で送金します。（送金日 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日）

a. 現金書留    b. 郵便振替（東京 5-83484）    c. 銀行振込（\_\_\_\_\_ 銀行宛）

銀行振込口座番号（いずれも普通預金）

|                                |         |           |         |
|--------------------------------|---------|-----------|---------|
| 第一勧銀虎ノ門支店                      | 1013945 | 富士銀行虎ノ門支店 | 993632  |
| 三菱銀行虎ノ門公務部                     | 0000608 | 三井銀行本店    | 4298739 |
| 住友銀行東京公務部                      | 10899   | 三和銀行東京公務部 | 21409   |
| 名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会 |         |           |         |

請求書類の必要な方はお申出ください。

請求書 \_\_\_\_\_ (No. \_\_\_\_\_)  
 通，見積書 \_\_\_\_\_  
 通，納品書 \_\_\_\_\_

請求先 \_\_\_\_\_